

5-3-4 東雲神社「丸山東照宮」

東雲神社は、古くから「丸山の権現さん」として親しまれてきた「東照宮」である。創建は元和8年（1622）と伝えられ、「駿国雑誌」や「安東村村誌」によれば、駿府城内にあった「東照宮」を現在地である府中浅間神社（現・浅間神社）の別当、惣持院境内に移したものと伝えられている。

惣持院は、明治元年（1868）の神仏分離令により廃寺となったが、「東照宮」は明治8年（1875）2月18日、村社に列せられ、同33年（1900）、村内にあった八雲神社を合祀し、「東雲神社」と改称した。

御祭神は「東照公 徳川家康公」「速須佐之男命」のほか、「天神社」「稻荷社」が祀られている。

宝物として、寛永20年（1643）に3代将軍家光公の武運長久と子孫繁栄を祈願して造られた「東照公御尊像」のほか、「慈性親王筆東照宮額」「三十六歌仙額」「駿府城代武田越前守信村奉納釣灯籠」「備前長光作脇差」などがある。

「丸山」の地名は、家康公が大御所として駿府城在城中の慶長年間、鷹狩のためにこの地を訪れ、その趣が京の円山に似ているとして名付けられたものである。

「駿府まちおこし」推進協議会
静岡市

説明板より